

おんらい す
恩頼図 本居大平著

文政10年(1827)頃筆

縦41.2cm 横27.7cm

国学の泰斗といえば、まず
は本居宣長(ちおぢのりなが)でしよう。主著の
『古事記伝』は不朽(ふきう)の名著と
いわれ、未だにその価値は失
われていません。一瞥(いちべつ)では蟻
の巣かと見紛(みまが)うほどユーモラ
スな形をした本図は、実は學
者宣長の姿を窺うのに、最も
簡にして便なる資料です。

「恩頼」とは神などから受け
る加護や恩徳の意ですが、本
図は宣長が誰のお蔭である様
な偉い学者となつたのか、ま
た誰々が宣長先生のお蔭を蒙(うけ)
つたのかと、各々にその人名
を列記しています。

最下段の円には、子・孫や
主な門人で、すなわちお蔭を
義を旨とする宣長学派から逸

蒙つた人たち。その中央の
「大平」は最も師に近仕し、
養子となり家督(かど)を継いだ門人
です。学才は凡庸(ほんよう)でしたが、
人柄は温厚篤実、千人に及ん
だ門人をよく統率しました。

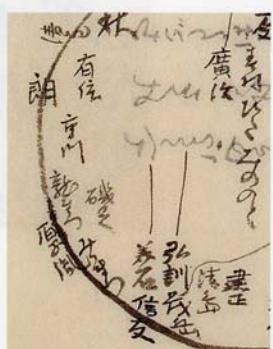
本図はこの大平が描きました。
同じ円の左下の「厚胤」は
平田篤胤(ひらたあつね)です。唱えるところ
の復古思想は、幕末すこぶる
全国各地各層に浸透して、明
治維新実現の大きな力となつ
たと評されています。

本図は大平の宣長觀を示す
ものですが、宣長自身の見解
も含まれているとも考えられ、
とても興味深い資料となつて
います。しかしだた一人、篤
胤のみが全く枠外に置かれて
いるのは、もちろん大平の嫌

脱、大平も篤胤から厳しく批
判されて、兩人は親近した間
柄ではありませんでした。

本図は大平の宣長觀を示す
ものですが、宣長自身の見解
も含まれているとも考えられ、
とても興味深い資料となつて
います。しかしだた一人、篤
胤のみが全く枠外に置かれて
いるのは、もちろん大平の嫌
惡の情を表すものです。

(天理図書館 岸本眞実)



天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 http://www.tcl.gr.jp/
◆平日(午前9時~午後5時半) 土・日・祝(午前9時~午後4時半)
10月18・26・31日は閉館。
(本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください)